

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800413		
法人名	医療法人社団 星野会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム まゆ 1棟		
所在地	栃木県小山市犬塚88-1		
自己評価作成日	平成22年10月21日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・常に利用者を尊重し本人本位で自由である ・家庭的な雰囲気の中で明るく、ゆったりと過ごして頂き楽しく生活している ・職員は優しく思いやりがある、又質の向上に研修、勉強会に取り組んでいる ・敷地内に協力医療機関があり安心である

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは市北東部の周囲に工業団地や大型ショッピングセンター、住宅地や幹線道路もある等、利便性に富んだ場所に立地している。ホームは別棟建ての3ユニットのグループホームであり、敷地内には同法人の介護老人保健施設やクリニック、歯科医院、知的障がい者授産施設等が併設されており、医療面や非常時における事業所間の連携も図られており、入居者が安心して暮らせる環境が作られている。ホームではカンパレンスを毎週実施しており、医師の指導の下で研修会を行う等、職員の資質の向上にも全体で取り組んでいる。職員は常に優しく入居者を見守りながら、本人本位の支援にあたっているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念を共有し家庭的な雰囲気ややさしさをモットーにその人らしく安心して生活が送れるように実践につなげている。又民生委員、包括支援センター、自治会との交流の下でも実践につなげている。会議には全職員が参加して理念を共有し意識付けをしている	「患者・家族・利用者などどのように向き合うか」「やさしさ」を理念として掲げている。理念は事務室に掲示している他、会議や送り時等にも確認しており、理念の共有に取り組んでいる。また、職員に「職場の教養」を毎朝読み聞かせ、倫理意識の高揚にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流はないが自治会の行事、桜祭り、ごみ拾い、市道の清掃に参加、授産施設のイベント参加又その家族との関わりがある	自治会には法人が加入しており、地域行事や清掃活動等に参加している。ホーム周辺には民家が少なく日常的交流は少ない状況ではあるが、併設する同法人事業所の利用者との交流や中学生のボランティア等との交流が行なわれている。今後、隣接する自治会にも出向いて高齢者間の交流も考えている。	ホームの立地から近隣に民家が少なく、隣接する会社や工場との交流にも限界があるが、隣接する自治会等との交流の機会づくり等に努めている事から、今後も地域とのつながりを深めていく取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会より地域暮らしについて話し合い、地域の高齢者の暮らしに役立つことはないかをお聞きし、職員が統一した意識を持って取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行いさまざまな意見を頂き参考にしサービス向上に活かしていけるよう努力している	運営推進会議は家族代表、地域の代表者、民生委員(施設顧問を含む)、地域包括支援センター職員等の参加により2ヶ月に1回開催している。会議をとおして他市のグループホームとの交流に結びつく等、参加者からの活発な意見や提案により、サービス向上に活かしている。	運営推進会議のメンバーは、議題に合わせて消防署、駐在所、市職員、自治会長、地域学識者等、柔軟な選定を行なう事で更にホームの理解を深め、幅広い意見等が得られる様な検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは連絡を取り、理解や支援、疑問点など考え方や実態を話し合い担当者とともに課題解決を図っている。包括支援センター・認定調査委員の意見をお聞きし協力関係を築いている	市役所には介護認定や制度の事で訪問や電話で連絡を取り合っている他、認定調査には担当職員に立会ってもらう等、連携を図っている。また、地域包括支援センターとも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解しており『緊急時以外拘束は行わない』というケアを行い、安全を確保しつつ自由な暮らしをするための工夫に取り組んでいる	身体拘束防止委員会を2ヶ月毎に開催しており、身体拘束をしないケアの実践や安全面に対応した支援方法等について協議・検討を行っており、全職員にも周知している。日中玄関への施設は行わず、職員の見守りにより対応している。	

グループホームまゆ・1棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や話し合いを持ち(委員会)虐待の危険性を早急に見つけ見過ごされることがないように注意を払い虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族に十分な説明をした上で契約をし利用して頂いている、介護報酬改定についてはその都度連絡、確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情、要望記入の用紙を用意し、苦情要望があった際には速やかに対応している。家族会には要望メモをお渡しし多くの意見や要望を出して頂いている	家族からは運営推進会議の参加時や年2回実施している家族会等で意見や要望の確認に努めている。また、家族の来所時にも職員が個別に要望等を確認している他、要望用紙を配布する等、意見や要望を表し易い環境に取り組んでおり、出された要望等は運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	棟会議、ホーム会議、カンファレンス申し送り意見や提案を話し合い働く意欲の向上や質の確保につなげている	職員は各棟会議において、意見や提案等を表す機会が設けられている。出された提案等はホーム会議で検討され、改善に役立てている他、全体会議で全職員へ周知されている。また、理事長参加による勉強会等も開催されており、職員の意欲や資質向上を図りながら運営への反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員のスキルアップのため准看護学校への推薦や奨学金制度、各資格取得のためのバックアップを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会等を行い質の向上に努めている、新人研修、現任研修、職員が働きながら技術や知識を見に付けるよう看護学校、社会福祉主事等の勉強を行っている		

グループホームまゆ・1棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設訪問活動を通じて、サービス向上に努めている 施設訪問後、全体会議で発表する場がありサービスの質を向上している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを受け止め、本人の訴え声に耳を傾け、しっかり傾聴している、会話を大切に、安心して生活が出来るよう信頼関係に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との関係作りと同様に、家族の気持ち、不安に思っている事を受け入れられるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今必要としている支援を見極め、他のサービスを含め対応し徐々に馴染み、安心納得しながら利用できるような工夫をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の生活歴の情報、得意なことを知ることにより、利用者の安心と安定感を生み出し、ともに過ごす時間を増やしよい関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に考え、面会時には談話の時間をとっていただき、ともに支えていけるような関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの人や場所には家族の協力のもと、途切れないよう努めている、公衆電話・手紙・外出・外泊等。施設内での行事等には参加呼びかけを行っている	本人や家族からの情報により、馴染みの人や場所等の把握に努めており、職員が入居者の行きつけの理美容室へ同行する等、家族と協力しながら馴染みの関係の継続が出来るよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにテレビ、ソファがあり利用者同士自由に交流を深めている、中央ホールにて週4回利用者全員が集い、楽しい時間を過ごしている		

グループホームまゆ・1棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の移動に伴い住み替えが必要となった場合には、ダメージを最小限に食い止めるため、情報提供しこれまでのケアを詳しく伝え継続的に配慮してもらうよう働きかけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活スタイルを大切にし、本人の希望をその都度しっかりと傾聴して本人の視点に立って話し合い検討している	職員は入居者と共に過ごす中から、入居者一人ひとりの生活状況や体調等を考慮し、本人の希望する暮らし方や意向の把握に努めている。家族からの要望や情報等も参考にしながら、本人本位に検討したサービスに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を把握し、プライバシーに配慮しつつ職員が本人や家族等となじみの関係を築きながら、楽しく生活が送れるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が日々の生活状況を処遇に記録し、申し送り、カンファレンスで把握出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回カンファレンスで話し合い、介護計画の見直しに活かしている。本人、家族と話し合い意向を聞いている	本人及び家族の要望を確認し、本人の生活状況や身体能力等を含めて協議したうえで、介護計画を作成している。介護計画は2か月毎に見直しを行い、本人の状態に変化が見られた場合等には、家族や医師等とも話し合い、現状に即した介護計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、変化等個々の処遇に記録している カンファレンスで話し合い介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて柔軟な支援を出来るように取り組んでいる		

グループホームまゆ・1棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市域の人や場を借りて本人が安全に安心して生活が出来るよう努めている 地域包括支援センター、クリニック、郵便局、理美容院、スーパー等		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にしている、敷地内に医療機関があり適切な医療を受けられる 月1回の定期受診。クリニックの診療科目にない眼科、整形外科、婦人科等については、本人が希望する医療機関で受診ができるよう支援している	同法人の協力病院が敷地内にある事から、入居後は本人及び家族の了解の下にかかりつけ医を変更してもらっている。協力病院への受診の際には職員が付添っている他、毎月の往診も行なわれている等、適切な医療を受けられるよう支援している。受診科目の無い診療の際には、希望する医院で家族の協力等により受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは情報を共有し適切な対応が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合における対応に係る指針』が作られており、同法人クリニックの医師の指示を受けながら、段階ごとに事業所の力量を把握して、どこまで支援できるか、見極めて行っている。職員全体で話し合い、家族、医療関係者と連携を図りチーム支援に取り組んでいる。実際に何度かの看取りを行いました。家族には入居時、重度化した場合や終末期の意向についての確認を行っている。	家族には入居時に重度化や終末期の意向について確認を行い、できるかぎり要望に添えるよう支援に取り組んでいる。ホームでは重度化や終末期の指針が作成されており、職員間での対応方針の共有や協力医等との連携により、昨年も2件の看取りを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	急変時の対応等、勉強会、訓練を行い、実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム単独での訓練を実施し敷地内の同法人との合同訓練も実施している。消防署には日頃から協力を得られるよう働きかけを行っている 災害時の備蓄も行っている	併設されている同法人事業所と合同での防災訓練を年2回実施している他、ホーム独自の訓練も実施している。消防署とは日頃から連絡を密にしている他、地域住民へも災害時の協力を依頼している。スプリンクラーの設置もされている。	法人内だけの訓練に留まらず、地域住民の参加による訓練の実施等、今後も地域との協力体制の構築に向けた取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライバシーを損ねないよう充分注意し対応している。日々の声掛けも『さん』付けしたり、大きな声、高い声は避け優しく呼ぶなど職員間で統一を図っている。馴れ合いにならないようにする。	入居者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでおり、呼び方は「さん」付けで呼んでいる。本人のプライバシーに関する事は他の入居者に聞こえないよう小声で言葉かけする等、本人のプライバシーや誇りを傷つけない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で決めることが出来るよう、又納得して生活して頂ける様上手な声掛けに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし『待つ、見守る』ケアを目標にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好み、持っている力に応じた身だしなみ、オシャレが出来るよう努めている、理美容室を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや摂取量を把握し、楽しく食事が出来るよう努めている。職員と一緒に食事をし、むせり等に対処できる、また楽しく食事が出来るようにしている。食器の後片付け。 外食。	献立は入居者の希望を確認しながら、管理栄養士の指導の下で作成されている。職員と一緒に同じ食事を摂りながら、摂食量等を把握すると共に、食事が楽しめる支援に努めている。また、食事の準備や片付けが出来る入居者もおり、本人の状況を見ながらの支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を記録し、体重の増減、体調管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力を引き出しながら個々に合った口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。 定時、トイレ声掛けを行っている(夜間)。	入居者一人ひとりの排泄記録表を基に、さり気ない声かけや誘導により、トイレでの自立した排泄支援に取り組んでおり、日中はオムツを使用している入居者はいない。夜間時には、本人の様子を伺いながら、声かけによる支援をしている。	

グループホームまゆ・1棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行い適度な運動、外気浴が出来るよう個々に合った対応をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は決めているがその日の体調や希望、気分に合わせて本人のペースでくつろいだ気分でゆっくりと入浴できるよう支援している。 檜風呂での入浴が人気あり、出来る限り対応している。	入浴は午前、午後で出来るようになっており、入居者の希望や身体状況により入浴の支援を行なっている。職員は安全のために2名での対応をしている。ホームの浴槽は檜風呂であり、入浴は入居者の大きな楽しみにもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の過ごし方を工夫し、安心して休息、安眠出来るように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬できるよう、服薬時には必ず確認し手渡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や得意分野を活かしお茶いれ、テーブル拭き、布巾縫いを行って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を確認しながら、散歩、買い物、外食を行っている、又家族協力のもと外出支援を行っている。 日常的に希望に応じ外に出る機会を作っている。	入居者の希望を確認しながら、日常的に外出支援に取り組んでいる。ホーム周辺へ散歩や敷地内のパン屋に買出しに行ったりしている他、別棟になっている他ユニットに出かけ、入居者間の交流や気分転換の支援をしている。入浴の無い日には外で足浴を行なう等、外出が楽しめるよう支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じてお金を所持したり使えるように支援している 本人管理が難しい方には職員が管理しつつでも使えるように対応している		

グループホームまゆ・1棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話がありいつでも掛けられるようになって自由である 手紙のやり取りが出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテレビ、ソファがあり利用者間の交流もあり、自由で楽しく過ごしている。季節の花を飾ったり手作りの季節の作品を飾ってあり居心地良く過ごせるような工夫をしている。季節感を感じることが出来るよう花を飾ったりしている。(すすき・クリスマスツリー・お雛様等)	玄関やリビングには季節の花が飾られ、周辺の壁面には職員のアイデアからリサイクル品を利用した季節毎の飾り物が掲示されている。リビングと食堂がホールとして共用の場となっており、入居者が思い思いの場所でゆったりと過ごしている姿が見られた。別ユニットの棟と棟の間には、生活訓練場ともなっている広い庭園が作られており、入居者の楽しみ場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、中庭にはベンチ、テーブルがあり、気の合った方々と思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、ベッド、テレビ等を持ってきて頂き、居心地良く過ごせるよう支援している。本人家族と相談し、居心地の良い空間が作れるよう支援している。	ホームでは自宅の延長のような感覚で居心地良く過ごして貰うために、馴染みの品々の持込みを促しており、各居室には使い慣れた家具類やテレビや冷蔵庫、コタツ等の家電類、馴染みの小物類が持込まれている。職員は本人や家族とも相談しながら本人にとって居心地の良い空間作りの支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ浴室など手すりが設置しており、安心、安全に自立した生活が送れるよう工夫している		